同志社大学国文学会彙報

一九九二年度国文学会活動状況

〈新入生歓迎会〉　四月二日　新島会館

〈国文学会総会〉　六月一四日　本学今出川校地至誠館三階会議室

・総会

・研究発表会

「『万葉集』巻十三の反歌小論
——三二六三～三二六五の歌群を中心に——」
勝見昌浩（本学大学院博士課程前期課程）

「『上海』から『寝園』へ
——横光利一・長編小説の端緒——」
黒田大河（本学大学院博士課程後期課程）

「高三古典・『平家物語』の実践
——九十年度全私研
・国語教育分科会の報告を中心にして——」
加藤昌孝（同志社香里中学・高等学校教諭）

〈国文学会会報〉　第二十号　三月二〇日発行

〈同志社国文学〉　第三十七号　三月一〇日発行

〈同志社国文学〉　第三十八号　三月二〇日発行

一九九一年度卒業論文題目

山上憶良の嘉摩郡三部作
——憶良の「世間」観——　久萬田　明子

越中における家持の自然詠
——「都への意識」を手掛りとして——　西　銘　むつみ

宮都の夕顔　長　藤　美　奈

六条御息所・怨霊論　島　田　実佐子

『源氏物語』北山考　森　本　　栄

深層の女・夕顔論　粟　津　友希子

中の品の女性像　高　木　一　光

『源氏物語』人物論
——葵上の場合——　小　杉　敏　之

『源氏物語』における「物の怪」考
——夕顔巻と葵巻を中心として——　吉　田　正　久

『源氏物語』における予兆と予言
——高麗人の観相・世の人・『催馬楽』「葛城」をめぐりて——　吉　田　親　弘

『源氏物語』地名論
——「須磨」「明石」をめぐって——　小坂桂史

『枕草子』類聚章段の方法
——「すさまじきもの」について——　山口美樹

『竹取物語』の方法
——「月」という言葉をめぐって——　飯田久美子

『伊勢物語』の方法
——第六段を中心として——　今西春路

『蜻蛉日記』の表現
——植物によせて——　藤原啓司

『和泉式部日記』における贈答歌の表現
——「手枕の袖」の歌群——　中村弘一

『とはずがたり』における後深草院と二条　一色美和

『とはずがたり』の執筆動機について　松田知恵

中世日記・紀行文学としての『とはずがたり』
——『十六夜日記』『海道記』との比較——　山下公彦

謡曲『隅田川』考
——元雅の方法——　小林訓子

神事芸能としての題目立　今村佳永

『百人一首』の撰歌意識　坂本和子

『平家物語』における平清盛　飯田真規子

『平家物語』における女性像　和田香

『太平記』におけるばさらと佐々木道誉
「神」になった楠木正成
——正成像の変遷を辿る——　鶴井麻由子

『義経記』における義経像の変貌　田中由美子

真田幸村英雄像の考察
——真田三代記から立川文庫まで——　田口眞寿美

『今昔物語集』鷲の棄て児譚に関する一考察　成山悟史

『宇治拾遺物語』の謎
——説話構成を中心に——　櫻井朋子

『宇治拾遺物語』における聖説話について　迫田央子

『とりかへばや物語』
——その異質性について——　内田裕子

「道成寺物」の流れ
——能楽『道成寺』を中心に——　塩瀬智美

『那須与市西海硯』の独自性とその魅力
——与市像と登場人物を中心にして——　橋本光史

『茨木』その所作事としての価値
——新古演劇十種の内として——　中西敬

『出世景清』
——影清像の系譜——　奥谷依子

近松世話浄瑠璃と歌謡　中江彰宏

赤木貞之

噺本における「ある盗人話」の変遷
——本文比較を通して噺本の歴史を辿る——　藤原美香
『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」におけるお夏像の造型について　磯部奈都子
『雨月物語』「浅茅が宿」の構成と主題
——謡曲『砧』をもとに——　勝島由加利
草双紙の世界の桃太郎像の変遷
——豆本『桃太郎』の方法を中心に——　川合亜紀
地歌「雪」の系譜と展開
——主に音曲を中心に——　守本知世
『忠臣蔵偏癡気論』の批評の方法
——『仮名手本忠臣蔵』七段目を中心に——　岡村恵美
『東海道中膝栗毛』とその素材について　田部仁一
『西鶴大矢数』と典拠
——謡曲との比較を中心に——　東藤勉
『世間胸算用』巻二、四と巻五、三の劇的構成について
——意外性という視点を通して——　吉岡かづみ
出雲のお国像と民衆意識
——「不破名古屋」とお国山三伝説の関わり——　池田亜矢子
浄瑠璃絵づくしの考察
——『双生隅田川』と『おさん茂兵衛　恋八卦柱暦』の舞台演出を探る——　緒方佐知子
『冥途の飛脚』とその改作について　亀井きよみ
『心中天網島』とその改作物について
——『心中紙屋治兵衛』と『天網島時雨炬燵』を中心に——　芳賀優子
『曽根崎心中』
——観音廻りと観音信仰——　麻生佳和
近松の道行心中について
——三つの心中物の比較と考察——　林政俊
近松心中物道行の趣向　坂東道子
『冥途の飛脚』について
——その人物造形——　龍田恵美子
『冥途の飛脚』について
——人物論を中心に——　墨岡光恵
『冥途の飛脚』における人物像
——八右衛門を中心として——　中村えみ
『冥途の飛脚』論
——その人物像をめぐって——　櫨清次
『冥途の飛脚』
作品分析と登場人物の性格分析　山下進
『女殺油地獄』論
——与兵衛の内面の変化を考察して——　元氏芳美
『心中天の網島』
——治兵衛をとりまく「義理」——　鈴木厚功

『夕霧阿波鳴渡』について
——夕霧劇の系譜をたどって——　小野康隆

『好色一代男』考
——好色修行を中心に——　青山淳一郎

『好色一代男』考
——世之介をめぐって——　宮西淳子

『好色五人女』巻三「中段に見る暦屋物語」考
——おさんを中心に——　足立早紀

『日本永代蔵』における二代目没落談の特徴について　芝聡子

『南総里見八犬伝』
——発端部の世界——　尾形明子

『三人吉三廓初買』について
——ドラマを動かすもの——　岡原良子

内田百閒論
——日記の中に見る幻想小説と随筆——　佐川史子

『銀河鉄道の夜』について　米重直美

斉藤緑雨と恋愛　大栄京子

樋口一葉『たけくらべ』論
——未定稿との位相——　植村早苗

『にごりえ』の一考察
——落魄と宿命を中心に——　水野愛子

萩原朔太郎『月に吠える』にみる実体なき揺れる生命について　南夕美

『玄鶴山房』論
——新時代についての個人的考察——　西森洋暢

林芙美子
——その文学における庶民性について——　川端珠津子

『路傍の石』論
——その意味づけと方向づけを中心に——　合田直人

壺井栄作品論
——『岸うつ波』にみる、作者の人間性の一側面——　藤田達矢

『押絵と旅する男』論　浜田百代

村上春樹論
——三部作の世界・空虚の背景と自己解放への意志——　鈴木志保

人生の縮図は競馬に有り
——宮本輝の「優駿」ダービー——　桒木尚子

『廃市』の方法
——河渠の形成と機能——　藤澤稔文

重症者の論理「言葉」と「現実」の構造
——三島由紀夫論——　東淳司

発禁本『青春の逆説』小考
——その禁止理由の一考察——　畠佐代子

太宰治『魚服記』論　岡本久二代

梶井基次郎『檸檬』　小嶋新治
宮沢賢治と音楽　山本真理子
『注文の多い料理店』構成法　渡辺智山
『山の音』における生と死の意識　宮武亮
思考と発話における指示詞「コ・ソ・ア」の機能　岸本典子
句読法の理論と実際
——読点を中心に——　佐藤濃江
受給動詞について
——話し手の心的態度を中心に——　米澤昌子
逆接表現の日中両言語の対照　橋本貴子
現代日本語動詞に於ける意味分布
——分類語彙表を用いて——　増谷俊彦
外来語の分析について　上田晶裕
言文一致における強調表現　和田治
現代日本語における略語の考察　八木泉
文体模倣の可能性について
——夏目漱石の絶筆作品『明暗』と
続編『続明暗』（水村美苗）の国語学的比較と分析——　俣野直子
現代語動詞のアスペクト
——「〜ている」の意味分類——　船津祐一郎

一九九一年度修士論文題目

『万葉集』巻十三の研究
——奈良朝の口誦長歌・試論——　勝見昌浩
神話の世界と祭儀
——国生み神話と檀君神話を中心に——　李芝恵
謡曲『楊貴妃』をめぐる一考察　吉川有智子
『曽根崎心中』の再生
——漢劇『曽根崎殉情』をめぐって——　黄発新
『銀河鉄道の夜』論　坂根弘子
漱石における写生文と「小説」
——「自叙体」の方法化——　服部弘美

一九九二年度卒業論文題目

額田王考　濱口実弦
枕詞の表現性
——柿本人麻呂の枕詞を中心に——　本多実
東歌における序詞の考察　星野浩美
記紀長歌謡における序詞表現の考察
——連結部を通してその発想を考える——　岩堀由美子
『万葉集』大津皇子歌群の仮託性についての考察　鎌倉大

「藤原宮御井歌」論　森田美香
高橋虫麻呂伝説歌論　中西優子
坂上郎女の歌について　武田知子
殯宮挽歌の考察
——表現を中心に——　戸塚生実
人麻呂歌集七夕歌の「物語性」について　酒井京子
『古今和歌集』における「桜」　長谷川朋子
『伊勢物語』みやび考　金井由紀子
六条御息所考
——都の聖痕——　大槻明子
「桐壺」妃考　尾谷美絵
『日本書紀』考
——歴史と伝承の方法——　坂根英樹
『源氏物語』琴考
——都の楽——　稙田博美
『源氏物語』地名考　山中喜文
古代なる末摘花
——その詠歌をめぐって——　横尾百合子
和歌のことば
——歌語「朝顔」の成立——　吉永真美
『伊勢物語』における章段の構成
——「けり」をめぐって——　中村登
『和泉式部日記』における最終贈答歌の意義　佐古有可
『紫式部集』における賀歌
——「菊の露」の歌をめぐって——　井戸美奈
『紫式部集』「女郎花」をめぐる贈答歌考
——『紫式部日記』との比較を中心に——　嶋山明子
謡曲「竹生島」考　備前美樹子
古代説話と蛇
——蛇の観念の移り変わり——　千葉憲子
中世における義経像の変遷　福井理之
毛利元就の人物像
——作者達の想いは今——　橋本一誠
男女関係からみた『閑吟集』　石丸知子
『平家物語』における清盛像　中律子
平家嫡流の行方
——『平家物語』における熊野参詣——　西村知夏
鴨長明　心の軌跡
——『方丈記』と『発心集』を中心に——　大場由貴子
歌枕「富士」の縁語「煙」と中世日記紀行　戸根川千恵
御伽草子における異常性
——一寸法師に託した夢——　中川あゆ

佐々木道誉・破壊と建設の行動美学
——『太平記』の記述を通して——　柴木加容子
『萬の文反古』の方法について
——成立をめぐる諸問題——　小島隆成
『鸚鵡籠中記』の価値に関する一考察
——その執筆態度を中心に——　近松誉
『雙生隅田川』における「班女」の造型
——「隅田川もの」との比較を中心に——　杉野隆輝
近世演劇における「小町物」の展開
——浄瑠璃『七小町』の位置をめぐって——　宮本十母
『女殺油地獄』その幕切れと与兵衛像の考察
——『演藝画報』の記事を中心にして——　水上弘美
『大経師昔暦』の戯曲的構成
——前進座上演との比較をめぐって——　長野有里
「土蜘蛛」の系譜
——「千筋の糸」をめぐって——　桜沢尚子
近松と海音の作劇法について
——『今宮心中』と『今宮心中丸腰連理松』を中心に——　竹井いづみ
『天網島時雨炬燵』の演劇的再評価
——原作との比較を通して——　坪木訓子
『鑓の権三重帷子』におけるおさい像の造型
——近松姦通物の方法——　渡辺千秋
本居宣長の文学論の形成と自律性
——『紫文要領』から『源氏物語玉の小櫛』巻一・二へ
その形成過程を中心に——　山口真喜子
『癇癖談』の構成と方法
——先行する『伊勢物語』の擬物語を通して——　山崎道子
草双紙における西鶴の浮世草子受容
——受容方法および受容意図を探る——　吉岡尚子
初期草双紙嫁入物のもつ意義　下世古知子
『曽根崎心中』
——涙の表現をめぐって——　加藤広美
『曽根崎心中』観音廻りについて　近藤哲治
『曽根崎心中』論
——「観音廻り」の重要性——　黒石秀一
『曽根崎心中』
——お初と心中について——　西門道博
『曽根崎心中』について
——お初・徳兵衛の心中をめぐって——　大鉢恭子
『曽根崎心中』の心中物考
——その存在理由と意味——　山内弘也
『堀川波鼓』について　馬場紀子
『女殺油地獄』論　牧野未央

『冥途の飛脚』の人物像
——八右衛門と孫右衛門について——　國本真美
『冥途の飛脚』
——登場人物の分析——　小林恭治
『冥途の飛脚』
——その人物を通して——　西井映理子
曾良の「随行日記」の性格
『世間胸算用』
——その方法と世界——　井口幸治
『本朝二十不孝』を解く鍵
——用語をめぐって——　長谷川智子
『日本永代蔵』と教訓性　木村文子
『世間胸算用』の構成と構造　長野有紀子
『浅茅が宿』
——勝四郎と宮木の人間像——　田中紀子
『浅茅が宿』と『吉備津の釜』
——その共通性について——　片桐智佳子
『雨月物語』「青頭巾」をめぐって　栗田麻子
「青砥稿花紅彩画」について
——黙阿弥の描いた悪——　仁井洋子
映画作家　小津安二郎のスタイルについて　川上美和
新美南吉論
——「山の中」をめぐって——　橘扶仁子
『至福千年』小論　鈴木千勢
開高健『輝ける闇』
——「視姦者」である「私」をめぐって——　赤間敬人
『道頓堀川』の改稿をめぐって　太田千里
芥川龍之介『袈裟と盛遠』論　加賀淳子
『少年』における構造の妙　赤井仁美
『美しき町』における理想・幻想と現実　亀井花
萩原朔太郎の『猫町』
——作品と背景——　福永洋子
内田百閒論『旅順入城式』論　菅麻里子
——個人的世界が普遍性を得るには——　渡辺奈穂子
尾崎翠『第七官界彷徨』論　山根多美子
『瓶詰地獄』論
夢野久作の人間像に迫る　白木市康
『心理試験』に見る乱歩の本格探偵小説の考察　森本恵司
海野十三『深夜の市長』にみる〈深夜〉世界
——東京の闇から宇宙の闇へ——　吉川麻里
『冬の蠅』論
——虚構の作品世界——　関路浩司

梶井基次郎、その性のイメージ　守屋　豊
鈴木三重吉と宮沢賢治、子供の視点
——アンデルセンを媒介として——　梅田倫子
石川淳『紫苑物語』論　川田久美子
福永武彦『死の島』
——方法と主題——　小島美帆子
大江健三郎の初期の作品における「監禁状態」について
——『芽むしり仔撃ち』を中心に——　松原さおり
『暗い絵』論
——ブリューゲルの印象を起点にして——　大西　仁
倉橋由美子『夢の浮橋』の方法論　山城ゆかり
童謡・唱歌にみられるオノマトペについての一考察　浜田志保
雑誌コピーの言語的男女差・年齢差
——女性へ向けられた女性語・その功罪——　磯矢順子
『てには網引網』の軽重緩急について　七里輝夫
『五十音図』の起源研究に関する一考察　阪下繭子
現代の話しことばにおける一人称代名詞　孫栄美
長塚節の『土』・森鷗外の『青年』・夏目漱石の
『門』における擬音語・擬態語　田中寿美代
化粧品広告にみる効果的な感覚表現とは
商品名の変遷
——家庭用電化製品の場合——　山本静
和語の略語における形態的特徴について　吉田周
『分類語彙表』における動詞の分布　吉川信子
日中両言語における外来語の受容研究　修徳健
共感覚的比喩について　江口麻美子

一九九二年度修士論文題目

『狭衣物語』狭衣大将即位考　廣幡久美子
「朱雀院」考
——『源氏物語』と歴史との交渉をめぐる考察——　吉田尚
成立期の浄瑠璃絵尽について
——享保期絵尽を中心に——　大原美代子
日中の夫婦心中劇
——『孔雀東南飛』と『心中宵庚申』——　姜楽平
『行人』論
——一郎の旅・二郎の旅——　大橋千鶴子
『漾虚集』に関する一考察
——「倫敦塔」「カーライル博物館」について——　高野美代子
有吉佐和子と中国　李伝英

日中両言語における借用語について
――『和訳英字彙』と『新爾雅』を中心に――

崔　万哲